

## 第 1 回益城町「平成 28 年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会の振り返り

### 防災教育について

- 災害対応検証の実施についても、住民と密にコミュニケーションしながら進めていくべき。
- 防災教育について、県での取組とも連携しながら検討を進めていきたい。
- 防災教育の部分と、地域防災計画や地区防災計画を策定して実行していく部分との重なりは多い。その点も留意しながら検討を進めていきたい。
- 語り部の活動については、記憶というのは薄れていくものなので、すぐに始めていければいいと考えている。
- 野島断層記念館や中越メモリアル回廊等を実際に見て感じるということも重要。

### 震災遺構の保存・活用について

- 「協働のまちづくり」の中で、震災の記憶を継承する取組を進めていく、ということになると考える。まちづくり協議会とも密に連携しながら検討を進めていきたい。

### 震災記念公園について

- 震災記念公園の取組は、四賢婦人記念館の構想も入れて考えていくべき。
- 震災記念公園は、「一度来ただけでもう来なくなる」ということがないように、住民主体での整備・活用となるように留意しながら検討していくことが重要。
- 震災記念公園について、「子供たちが何度も来たくなるような場所」の裏側に、追悼の気持ちや震災の記憶がある、というように、日常の暮らしを支える場であるということの基本において考えていきたい。益城町らしい震災記念公園を模索していきたい。

### 委員会での検討の進め方について

- 50 年後、100 年後の益城町の住民が、今回の地震の記憶を活かせるように、常に忘れないような取組について検討していきたい。
- 「記憶の継承」というのは期限のない取組。いきなり完璧なものができるものではないと思う。まず着手することが重要。
- 住民と協働しながらの検討が重要。本委員会に関する内容を、住民にどう理解してもらうかを留意しながら進めていく必要がある。
- すぐにやるべきことと、長期間かけてやっていくべきことの区別をしながら進めるべき。
- 町の財政状況も鑑み、既存の施設や資源を活用しながら、上手に取組を進めるようなやり方を検討していく。
- 委員会の場だけでは言い切れない意見を提出できるような仕組みも必要。

以上